

令和5年度 教育事業（指導者等養成研修事業）
青少年教育施設ボランティア養成講座（31年目）

1 事業概要

高校生・大学生が、青少年教育施設や様々な地域でボランティア活動を行うための基本的な知識・技術を学んだ。講義では、ボランティア活動の意義や体験活動の必要性などを知ることができた。また、当施設法人ボランティアがスタッフとして参加し、参加者と関わりながら全ての活動を行った。



2 事業の目的（ねらい）

国立大洲青少年交流の家が主催する教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うボランティア人材を育成するとともに、青少年教育及び人材育成の観点から、地域社会へ貢献しようとする人材の育成を図る。

3 企画のポイント

法人ボランティアが講座を担当し、ボランティア活動の経験や想いを伝えることで、参加者にボランティア活動を身近に感じてもらえるようにした。また、市河氏や柴崎氏、敷村氏の講義では、ボランティア活動の意義や体験活動の重要性について、レクリエーションやグループワークを用いて、参加者が主体的に学ぶことができるよう計画した。

4 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

5 後援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会・(株)愛媛新聞社

6 期日 令和5年6月17日（土）～6月18日（日）

7 場所 国立大洲青少年交流の家

8 対象 教育支援ボランティア活動に興味・関心のある高校生、大学生、専門学校生、社会人等の青少年（29歳以下）

9 参加人数 9名（高校生4名 大学生4名 社会人1名）

10 参加費 3,500円

11 講師 松山東雲短期大学 教授 市河 勉 氏
 愛媛ボランティア学習研究会 事務局長 柴崎 あい 氏
 えひめこどもの城 園長 敷村 一元 氏
 大洲地区広域消防事務組合 大洲消防署員
 国立大洲青少年交流の家 職員

12 日程

17日（土）

9:30-10:00 受付
 10:00-10:30 開講式
 10:30-11:30 [講義・演習]ボランティア活動の技術①
 11:30-12:30 [講義]青少年教育施設の現状と運営
 12:30-13:30 昼食・休憩
 13:30-15:00 [講義]ボランティア活動の意義
 15:30-18:30 [講義・演習]ボランティア活動の技術②
 18:30-20:00 入浴・休憩
 20:00-21:00 [説明]青少年教育施設におけるボランティア活動①
 21:00 就寝準備・就寝

18日（日）

6:30- 9:00 起床・検温・健康観察・つどい・朝食
 9:00-10:30 [講義]青少年教育
 10:30-11:30 [説明]青少年教育施設におけるボランティア活動②
 11:30-12:30 昼食・休憩
 12:30-15:30 [講義・演習]自然体験活動の安全管理
 15:30-16:00 閉講式
 解散

13 活動内容

【1日目】

「ボランティア活動の技術①」では、市河氏からアイスブレイクの手法を学ぶとともに、参加者自身が体験することで互いに打ち解け合う機会となった。「青少年教育施設の現状と運営」の講義では、施設職員から、社会教育や青少年教育施設の役割を学んだ。柴崎氏の「ボランティア活動の意義」の講義では、視覚障害の方の体験談等を基に参加者同士で考える場面もあり、ボランティア活動の具体的な進め方について学ぶことができた。「ボランティア活動の技術②」では、カレー作りを行い、火おこしの方法や調理器具の使用方法、安全管理を学んだ。「青少年教育施設におけるボランティア活動①」では、法人ボランティアが、自身のボランティア体験や活動に対する想いを伝えた。参加者は先輩ボランティアの説明を熱心に聞き、今後の活動に対するイメージを膨らませ意欲を高めた。



【2日目】

敷村氏による「青少年教育」では、子供や体験活動に対する理解を深め、発達段階に応じた体験活動の必要性を学ぶことができた。「青少年教育施設におけるボランティア活動②」では法人ボランティアの登録制度について、施設職員が説明を行った。「自然体験活動の安全管理」では、大洲地区広域消防事務組合消防署員から心肺蘇生法や AED（自動体外式除細動器）の使用方法を学んだ。



14 参加者の声

事業後アンケート結果（高校生：4名 大学生：4名 社会人：1名）

*満足：100% *やや満足：0% *やや不満：0% *不満：0%

○自由記述欄（抜粋）

- ・子供の野外活動を支援するボランティアに興味があり、今回の講座を受けられてよかった。また、同世代の友人ができ交友関係を広げられた。
- ・最初は、周りに知り合いが居なくて、少し不安でしたが、同じ参加者の皆様や施設・ボランティアの皆さんが、気軽に声をかけてくれたおかげで、2日間楽しく過ごすことができた。
- ・自分の価値観を広げることができた。また、将来への可能性も広がり、学びが多くて楽しかった。

15 事業の成果

参加者の多くが、日頃からボランティア活動に対して興味をもっており、意欲的に事業に取り組む姿がみられた。また、参加者同士が自主的に交流する場面が多く見られ、新たな人間関係を築く良い機会となっていた。アンケートの結果からも肯定的な意見が多くあり、今後の自身の在り方について学ぶ機会になったと思われる。

16 事業の課題

今回は、昨年度よりも参加人数が大幅に減った。各学校や関連機関に出向いて広報活動を行ったが、学校の行事等と重なり、興味を持って参加することができなかった学生がいた。来年度は、希望する学生が参加しやすい日程を考慮して設定したい。

今後、新規登録者が本講座を通して得た知識や経験を活かすことができるよう、ボランティア活動や研修等の案内を積極的に行いたい。その際、新規登録者が興味や関心が持てるような広報の工夫を図り、ボランティア活動への参加者を増やしたい。

（担当：企画指導専門職 二宮 啓）